

第5次原村総合計画の策定にむけて

第5回ワークショップ資料案

平成27年3月17日

『ワークショップの日程』

第1回ワークショップ 平成27年2月4日(水) 19:00~
テーマ : 「第5次原村総合計画への取り組みの主旨など」、
「原村の課題・村づくりなどの方向性」について

第2回ワークショップ 平成27年2月18日(水) 19:00~
テーマ : 「自然環境・生活環境」について

第3回ワークショップ 平成27年2月25日(水) 19:00~
テーマ : 「教育・健康福祉・文化」について

第4回ワークショップ 平成27年3月4日(水) 19:00~
テーマ : 「産業振興」について

第5回ワークショップ 平成27年3月17日(火) 19:00~
テーマ : 「10年後の村づくり、必要な取り組み」について

『今日のタイムスケジュール』

次	第	目安時間
1. 開 会		19:00
・ご挨拶 ・本ワークショップの目的・作業説明		5分 20分
2. グループ別作業		19:20
・「村づくり」について	【配布資料】	60分
3. グループ別発表		20:20
・村づくりについて		3~5分ずつ 30分程度
4. その他		20:55
・今後の予定など		5分
5. 閉 会		21:00

今日のテーマ（目的）は、「村づくり」です

第4次総合計画やこれまで3回実施しましたワークショップの意見を振りかえながら、
第5次総合計画に継承また改善・発展していくべき「村づくりの目標」「目標実現に必要な取り組み」などについてワークショップを行います。

国が喫緊の重要課題としてあげている日本・原村の将来を見据えた「地方創生」のための施策の方向性についても、第5次総合計画に反映していきます。

- 産業の活性化
- 働く場や住宅環境の創出
- 移住・定住の促進
- 結婚・出産・子育ての支援
- 教育・医療・福祉などの充実を図り



地方に人を呼び戻し、少子化、人口減少を解消して、地域経済・社会を活性化する

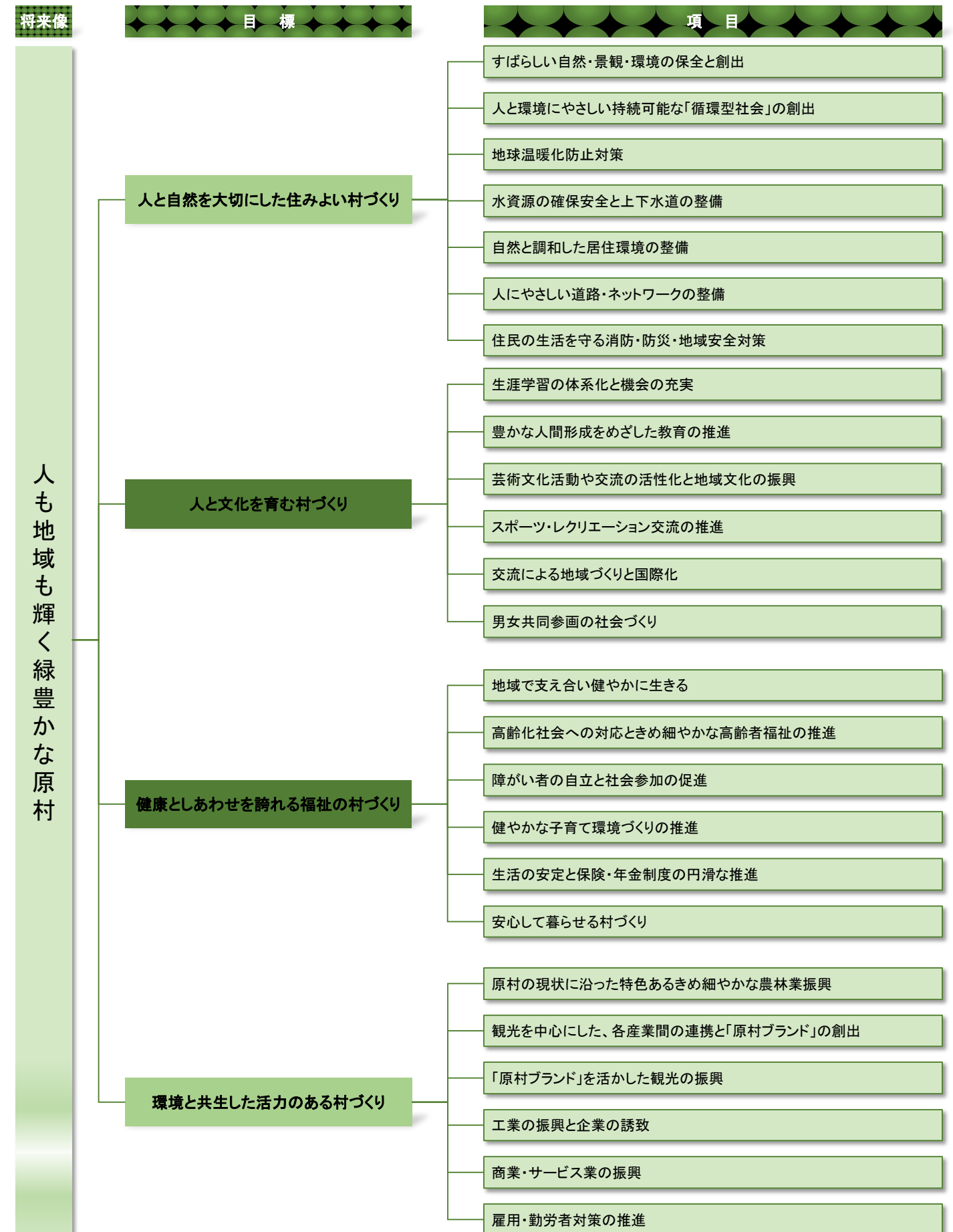
約10年前に比べ地域、社会経済が大きく変わり、住民皆様の暮らしや村づくりのビジョンも大きく変わってきています。

ワークショップでは、ファシリテーターからの説明の後に、

- ① 10年後、どんな村にしたいか（将来の村のイメージ）
- ② 10年後の原村に向けて、特に力を入れるべき取り組み

について、具体的に、意見・イメージを話しあっていただきます。

第4次総合計画 村づくり施策の体系



第4次総合計画 村づくりの目標と重点施策の概要

村づくりの目標1

人と自然を大切にしたい住みよい村づくり

○安全で利便性が高く、より美しく快適な生活環境づくりを進めることで、住民生活の質の向上に努めるとともに、自然のもつ多様なエコロジー機能の保全に留意しながら、原村ブランドの源である自然や景観が与える「心のやすらぎ」の価値を再認識し、原村が「原村らしく」特色を持ち続けるため、人と自然との調和を図った村づくりをすすめます。

第1項 すばらしい自然・景観・環境の保全と創出

重点施策 自然環境の保全と共生

(担当：建設水道課)

- ①原村環境保全条例・規則の見直しと開発指導基準の整備
- ②環境保全に関する広報活動の推進
- ③環境保全組織の育成・支援

第3項 地球温暖化防止対策

重点施策 地域新エネルギー利用の促進

(担当：総務課)

- ①再生可能エネルギー導入促進
- ②環境学習機会の充実
- ③公共施設等における温室効果ガス削減

第5項 自然と調和した居住環境の整備

重点施策 集落環境の整備

(担当：総務課)

- ①生け垣や自然石積み河川などの保全と新設
- ②住民自らが発案する集落行動計画に基づく環境の計画的整備

第7項 住民の生活を守る消防・防災・地域安全対策

重点施策 広域消防体制の確立

(担当：消防室)

- ①組織体制の強化
- ②緊急消防援助隊の大規模災害への対応
- ③高機能指令システムの導入
- ④無線通信のデジタル化

第2項 人と環境にやさしい持続可能な「循環型社会」の創出

重点施策 ごみの排出抑制

(担当：建設水道課)

- ①ごみの分別排出の徹底とごみ排出抑制に対する住民意識の啓発
- ②ごみの排出区分の細分化と資源化の推進
- ③生ごみの自家処理の推進と資源活用方法の研究
- ④ごみ3R（発生・排出抑制、再使用、再利用）運動の推進
- ⑤ごみ持ち帰り運動の推進

第4項 水資源の確保保全と上下水道の整備

重点施策 給水施設の整備と施設の有効利用

(担当：建設水道課)

- ①新たな水源の確保
- ②老朽管の布設替えの実施
- ③災害に強い水道設備の整備
- ④健全経営の推進

第6項 人にやさしい道路・ネットワークの整備

重点施策 公共交通機関の整備充実

(担当：総務課)

- ①持続可能で利用しやすい公共交通の構築

村づくりの目標2

人と文化を育む村づくり

○学校教育とともに生涯学習の機会を充実させ、住民の皆さんが必要に応じて自主的に学ぶことができる環境づくりを進め、固有の文化を大切にしながら人を育てる村づくりに取り組みます。

○身近なところで気軽に参加できるスポーツ・レクリエーション活動の多様な機会と場の整備に努めます。

第1項 生涯学習の体系化と機会の充実

重点施策 生涯学習機会の提供と支援

(担当：教育課)

- ①住民のみなさん自らによる自主企画事業への支援
- ②住民ニーズに応じた講座の開設
- ③学習成果の活用支援

第3項 芸術文化活動や交流の活性化と地域文化の振興

重点施策 芸術・文化活動の充実

(担当：教育課)

- ①村民の文化・芸術等の発表機会と場所の充実
- ②各種団体の自発的な活動推進
- ③ハヶ岳自然文化園及び歴史民俗資料館（ハヶ岳美術館）における文化・芸術の活性化と集客の促進
- ④原村郷土館における民俗資料の収集展示と体験施設としての確立

第5項 交流による地域づくりと国際化

重点施策 地域間交流の推進

(担当：総務課)

- ①戸田地区を含む沼津市との交流の拡大
- ②地域間交流の検討

第2項 豊かな人間形成をめざした教育の推進

重点施策 教育内容・方法の改善充実

(担当：教育課)

- ①中学校少人数学級（35人）の実施
- ②小学校T・T講師、中学校AET講師の継続と中学校T・T#の導入
- ③総合的な学習の時間・道徳・特別活動の支援
- ④国際交流の推進
- ⑤教職員の資質向上への支援
- ⑥小中連携教育の強化 ⑦特別支援教育の充実

第4項 スポーツ・レクリエーション交流の推進

重点施策 社会体育団体・グループ等の育成

(担当：教育課)

- ①体育協会やスポーツ登録団体の組織強化
- ②スポーツ団体相互の交流促進

第6項 男女共同参画の社会づくり

重点施策 男女共同参画推進体制の整備

(担当：教育課)

- ①「原村女性団体連絡協議会」の活動支援の推進
- ②各種研修機会への参加推進
- ③審議会、委員会などへの積極的な参加の促進
- ④男女共同参画計画の推進

村づくりの目標3

健康としあわせを誇れる福祉の村づくり

○保健・医療サービスを充実していくとともに、村ぐるみの保健・健康づくりを推進しながら、社会的援護を必要としている人々に対して、実態に即した対策の充実や心暖かい地域福祉活動を推進します。

○高齢化社会に向けて、高齢者自身が活動の主体者であるような環境条件を整えるとともに住民の皆さんがボランティアとして福祉の一翼を担う互助精神を持ち、自律的な福祉社会構築へ向けた住民一人ひとりの創意に満ちた主体的な取り組みを促し、開拓・結実させる仕組みをつくり上げていきます。

第1項 地域で支え合い健やかに生きる
重点施策 住民主体の積極的な健診受診と、結果を活かした健康づくりの推進
(担当：保健福祉課)
①各種健診・検診の受診率向上
②健診体制の整備
③精密検査が必要な住民の定期追跡と受診勧奨
④健康づくりの意識づけ

第2項 高齢化社会への対応ときめ細やかな高齢者福祉の推進
重点施策 健康でいきいきした生活を送るための保健予防・啓発の推進
(担当：保健福祉課)
①介護予防教室への参加の促進
②介護保険・老人福祉サービスの情報の提供
③高齢者の住みよい環境づくりの推進
④医療費特別給付金制度の継続

第3項 障がい者の自立と社会参加の促進
重点施策 参画できる地域社会の実現
(担当：保健福祉課)
①障がい者に対する理解の促進と人権擁護の啓発
②住みよい福祉の村づくりの推進

第4項 健やかな子育て環境づくりの推進
重点施策 地域における子育て支援
(担当：保健福祉課)
①保育所・幼稚園による子育て支援
②「子育て支援センター」設置の検討
③住民のみなさんとの協働による子育て支援

第5項 生活の安定と保険・年金制度の円滑な推進
重点施策 医療保険制度の健全運営
(担当：保健福祉課)
①国保保健指導事業への取り組みと医療費適正化の推進
②保険税収納率の向上
③制度啓発の推進

第6項 安心して暮らせる村づくり
重点施策 住民相談の充実
(担当：住民財務課・総務課)
①専門機関と連携した相談体制の充実
②利用しやすい相談所の開設
③結婚活動推進事業の実施

村づくりの目標4

環境と共生した活力のある村づくり

○各産業の村内資源の有機的な結合を図り、「原村ブランド」として全国に発信します。

○魅力ある人材の発掘を行い、住民自らが楽しみながら参加する体験型観光を育てていくことで、「信州でもっとも首都圏に近い村」としての手軽さと、村の持つ田舎のイメージ、さらにはすばらしい自然環境と景観を背景に、住民主体の原村らしい地域産業のネットワークの形成を図り、経済活動が村内で循環し、雇用の場が創設され、地域力を高めていく新しい「しくみ」づくりを推進します。

第1項 原村の現状に沿った特色あるきめ細かな農林業振興
重点施策 農用地の保全と高度利用
(担当：農林商工観光課)
①農地の流動化事業による、中核的担い手農家への農地の利用集積と、遊休農地の解消促進
②中山間地域直接支払制度利用による農用地の保全
③農業振興地域整備事業に基づく優良農地の積極的な保全の推進
④市民農園・観光農園・農業体験による遊休農地の利用促進
⑤農地・水・環境保全向上対策による農地の保全
⑥有害鳥獣被害防止対策の実施
⑦農業制度資金利子補給及び利子助成事業

第2項 観光を中心にした、各産業間の連携と「原村ブランド」の創出
重点施策 住民参画による体験型観光の育成
(担当：農林商工観光課)
①工房や農家などの体験施設のネットワーク化と、体験メニューの提案
②ペンションなどの宿泊施設や工房、農家等の受け入れのコーディネート体制の創設
③モデルコースの提案と宣伝活動の推進
④地域を挙げてのおもてなしの心の醸成
⑤地域住民等ボランティアによる環境整備維持活動の促進

第3項 「原村ブランド」を活かした観光の振興
重点施策 観光拠点の再生とネットワークの整備
(担当：農林商工観光課)
①情報ネットワークの構築による総合案内機能の整備
②ホームページなどによる観光情報の発信
③観光案内所の移転・整備

第4項 工業の振興と企業の誘致
重点施策 既存企業の支援と育成
(担当：農林商工観光課)
①経営基盤の強化と規模拡大への支援
②国・県・大学・NPO等支援機関が行う人材育成や技術開発の情報提供及び参加促進の支援
③工業技術展等への参加による技術情報の収集及び販路拡大の促進
④産学官連携事業の支援
⑤商工会による研修・指導相談体制強化への支援

第5項 商業・サービス業の振興
重点施策 他産業との連携による商業の振興
(担当：農林商工観光課)
①原村産農産物を利用した地域特産品やお土産の研究、商品化の促進
②地場産品を活用した新メニュー開発への支援とPRの推進
③原村特産品の認定制度を検討

分野別ワークショップでの意見まとめ

第2回ワークショップ 『自然・生活環境』

すばらしい自然・景観・環境の保全と創出

—自然保護—

- 管理が不十分な森林が多い
保養ゾーンでは道路わきの伐採ができるような条例ができないものか。
- 昔植えられた樹木が伸びすぎて、景色が変わってしまった。景観のためには伐採が必要な所もある。私有地であっても可能な方法は？
- ハケ岳山麓への別荘等の規制。（自然を残すために）
- 野焼きの禁止
- 自然環境、森林の保全。
- 植林、樹種のせんばつ等。かん養、土砂の流出を防げる森林へ。
- 森林の下草刈りなどにより、失われつつある植物の復活を進める。
- れんげつつじ、山百合、桜草など。（場所整備結果）
- 森林及び木材の総合利用計画（観光、建築、エコプラントなどに関係）
- 自然林の保護。完全伐採の場所に配慮
- 伐採を行っていると聞くと、植えるものについてよく考えて植えているのか。
- ハケ岳自然文化園の施設の総点検

—生態系・生物の多様性—

- 自然～環境の保全、（生態系～各ゾーンにそれぞれ有るため）
- 現在は鹿が大きな問題になっている。過去から比べると小動物が減った。（うさぎ、リス）
- 生物多様性の保全。環境の保全→結果が景観
- 希少種の取り扱い
- 鹿対策農地、駆除、エサによるもの。

—農地—

- 田んぼや畑がずっとあってほしい。田んぼにカモ
- 自然農のクラインガルテン
- 有機農業エリアをつくる。村の目玉に。
- 農地の保全をどうするか。（遊休農地）
- 遊休農地の活性化
- 農業を教えてもらう場・機会が欲しい

—景観—

- 払沢近辺の使えなくなっている蔵や古民家が並んでいる通りを若者が集えるカフェにリフォームして昔の街並みを美しく元気に復活。
- エコライン沿の景観の保全。原村の景観のある意味、生命線である。ハードルを整備する。
- 森林内への住宅規制。なるべく集落内へ別荘も区域を限って作る。
- 美しい景観づくり。景観条例を見直し、ハケ岳の自然と調和するように色、建物、ハウス等も規制する。
- 自然とは景観の事とし、村内特に原山、ハケ岳裾には家が建たないように。（から松）
- 自然保護、保健休養地内への住宅新築については、もう少し規制を強くできないか？
- 電柱・電線の地中化 景観、富士山を見たい。
- 山の景観を活かす。
- カラマツ等が高くなって景色が見づらい。（ハケ岳）
- 看板のあり方。規制の必要性。
- 現代的な看板ではなく、原村らしい木の看板など古い感じを出す事（例 Free range children）
- まず自分の家の回りの整理をする！したい！
- ガイドライン化、条例
- ソーラーパネル設置に村独自の厳しいガイドラインを。
- ペンション区の景観見直し（点検）
- 美しい村づくり連合への加盟
- 特に冬場、歩道の確保が難しい。（私有地）冬の日当たりにも関係する。
- 利便性を追求しない。
- 信号をなくす。ラウンドアバウト化。
- 「星」をもっと活用できないか？
- 「寒さ」を生かす方法は。
- ソーニングごとに分けるのが×
- 自然とはなに？
- 自然の美（雪形）など文化財にしてほしい。
- 砂利道を残して欲しい。
- 地べたにソーラーは今後場所を選ぶ。

人と環境にやさしい持続可能な「循環型社会」の創出

—ゴミの減量、リサイクル—

- えんがわ、わらしべ文庫、貸し本屋（まちづくり）（ごみ減量）
- リサイクル品の保管、交換施設があると良い
- 子ども服の交換
- リサイクルをいつでも村でやっている場所が有れば良い
- ゴミの収集が余りにも遠い。
- 小規模資源物リサイクルステーションをつくり、常時回収する。
- 資源ゴミは常時出せるコンテナがあると良い。物にもよるが衣料など。
- 生ゴミのリサイクル（各家庭）
- ごみ、リサイクル、3Rの内、リデュース（必要以上の物を買わない）意識の向上。梱包方法の確認（企業など）
- 生ゴミリサイクルはコンポストでは限界があるので、村全体で取り組めると良い。
生ゴミの堆肥化→畑へ。
- 生ごみ処理機の普及を考える。（冬コンポスト使えない→電動→堆肥化）
- 生ゴミをエネルギー化する。（ゴミ減量）→水素エネルギー
- ごみゼロの村を目指して行動する。生ゴミの循環など将来最終処分場が必要なくなるように。
- ゼロウェイスト宣言
- 各家庭にゴミ処理機などが配布できれば（コンポスト以外）
- 資源物の出し方の検討。現在役場、各地区各月1回。ごみステーション等への多量投棄。

—エネルギー—

- 新エネルギー、風土にあった原村らしいバイオマス利用
- バイオマスエネルギー、バイオガス、バイオ水素生産の研究。
- 林の下払い、間伐材、不耕作地等の草の利用。
- 森林の下草刈等の肥料化。
- 地域内で循環できるエネルギーへ。地中熱、太陽熱、太陽光など。使わない生活も考える。
- 間伐材で村の公共施設を作る等の取り組みをしたら良いと思う。
- 循環型社会と言う事で発電の話があった。10年あれば可能だと思う。
- 植林されたカラマツを伐採したら、レンゲツツジが増えてきました。10年ほどになります。
- 自分の生活の見直し
- 子育てでパパ、ママの交流につながるゴミ捨てなど
- 地産地消を推進し、村内の産業との循環をつくる。諏訪圏内も視野に。

地球温暖化防止対策

- 地域で使うエネルギーをまかなえるように！（薪、電気）
- 再生エネルギーで村全体の電力をまかなうモデルビレッジにする。バイオマス利用などドイツの。
- エネルギーの村独自の自立
- 村で完結できるエネルギー調達をつくる。
- 地産地消で成立するエネルギープラントの検討（バイオマス、小水力など）
- エネルギー問題は太陽光～地熱利用の検討を。
- 自然エネルギーへの積極的取り組み
- 森林育成と就労（バイオマス／エネルギー）
- 木質バイオマス
- 太陽光も電力だけでなく、いろいろな方法も有る。風力など温水など。
- 水素による地域エネルギー⇄生ゴミを原料とする。
- 小水力発電普及のための水の見直し
- 新エネルギー水道の活用
- バイオマスエネルギーの活用（①燃やすバイオマス、②発電するバイオマス、発熱するバイオマス）
- 太陽光発電は24時間発電できる訳ではないので、他の水力発電、バイオ発電等のエネルギー比率を考慮して取り組んだ方が良い。
- 風力発電は効率が悪く、落雷、景観、バードストライクの問題が有り作らないでほしい。
- 地中熱→地下水脈を活用し、熱エネルギーを取り出す。→農業用、融雪用
- 中山間地の有効活用（バイオマスエネルギー）ソルガム等の栽培。→荒廃地を作らない。エネルギーを取り出す。
- エネルギー太陽光発電（家庭用）の普及
- 上水道による発電
- 省エネ、新エネルギーなど、新たなエネルギーの開発は是非とも必要と考えます。（バイオマス）
- 利用後、処分できるエネルギーを！
- もう少し時間がたてば自動車の燃料はガソリン→水素に変わっていくべき。
- バイオマス、チップ、堆肥化プラント→エネルギー・リサイクル
- 森林の新陳代謝。村による薪の斡旋。
- 間伐材による熱エネルギーの活用（初期投資はかかるが）

水資源の確保、保全と上下水道の整備

—水を大切に利用—

- 水質保全。下流に水を流す責任地として、きれいな水を流せるよう行動する。生活、産業連携して。
- 原村の水道水は美味しいと思っています。地下水と聞いているが、いつまでこのままの状態が続くのか。
- 水源が長期的に枯れないか不安。使用量と地下への浸透量の関係が不明。

—水資源の保全—

- 下水道の全戸普及（浄水ますをやめる）
- 原山の上部は下水道設置の計画はあるか。
- 農業としての資源の保全
- 水のかん養が農林省事業にもある。
- 自然地内の水の保全、又有効に使用できるよう

—水の再利用（阿弥陀水）—

- 阿弥陀水、村で売り出す。利活用。
- 舟山十字路に入った所、阿弥陀水を資源にはどうか。

自然と調和した居住環境の整備

—公園・遊び場・緑地など—

- 騒げる居場所（図書館はダメ）
- 村内どこでもプレーパーク（遊び場）
- 自然を壊せる場（遊びとして）
- 日常的に自然の中で遊べる場
- 家の庭で遊び場やるからよろしく
- 放課後に集まれる場
- 居住地区に公園などが少ない
- 中学生、高校生の行く場所
- 子どもの遊び場が少ない。
- 友達と遊ぶ場所
- 屋外型学童
- 色々な世代の人が立ち寄れる場
- 学童、児童クラブの予算をちょっと分けてくれれば外でできる。
- まずは週3日、外遊び（5~600万？）
- 公園というものを作る必要はない。今の原村をなるべく都会的にしない。
- 放課後、どこへも行く場所がない子がいる。家に来ている。
- 遊べる山、森、川

—空き家・休耕農地—

- リビングゾーンの土地、空き家等の調査をし、活用できるようにする。
- 原村の空き家問題はどのようになっているか。
- 空き家になっている古民家等を活用できるための施策は？
- 優良農地が宅地化されている。
- 休耕地となっている土地の再生利用を農家さんだけの問題ではなく原村全体のこととして考えていく。その利用に関して雇用が生めるもの。
- 森（森林）の整備
- 下水道未整備、地域の人口増は問題。何らかの歯止め。
- 農業者を増やす。農業者が山林を所有。就農支援策。一定の農業者がいることで保たれているバランス。
- 居住環境、家庭用焼却設備の研究。
- 公園いらない。公園手入れ必要。手のかからない取り組み。
- 自然との調和って？緑被率、緑視率の考え方が重要！

人に優しい道路・ネットワークの整備

—道路整備・改善—

- 「不便」なのもいいところ
- 除雪について、雪が降る度に道が狭くなる。
- 通学路に土と草を！
- 雪道、日陰になる道を減らして欲しい
- 道路の融雪→高齢化社会のインフラ整備。自然エネルギーを利用する。
- 農道の規制、事故防止。
- 村内すべての道が歩きやすい道となるよう、ウォーキングコースの充実。
- 道路、交通。茅野市、諏訪市へのアクセス改善
- 集落の中を主要道が通っている所は歩道を整備する。できない所は別ルートを作る。
- 舗装道路はもう充分。
- 道路状況は今のままで充分。
- アスファルトをはがす道づくり
- 住まい近くの砂利道を道路に。
- 歩道の整備
- 生活道路の除雪が不充分。村の除雪計画路線に入っていない生活道路の存在。
- ラウンドアバウト

—公共交通—

- 高齢化が進む原村では今後、公共交通が必要だが、そのしくみはいろいろな工夫が必要。
- 通勤、通学に使う公共交通の整備。一人でどこへでも行けるように。
- 茅野から夜遅めの時間に、乗り合いで村に戻るバスの運行を日に1本でも。
- 村内循環バスの充実（生活（各地区）に即したきめ細かい調査、アンケートの上に）
- バス待ちをコミュニティに。
- 公共交通はますます高齢化が進む中、もっと需要が高まると思う。
- 高齢化に伴い、公共交通のバスの運行を是非多くしてもらいたい。
- 公共交通機関の充実
- セロリン号の通勤・通学支援便は最終をもっと遅くできないのか。
- 公共交通のなさが漠然と不安。ボランティアの送迎に頼るのか。
- 公共交通の整備
- 健康づくりに力を入れ、医療費の抑制を。スポーツ、食と連携したプログラムを。

住民の生活を守る消防・防災・地域安全対策

—防 災—

- 地区のコミュニケーション作り→最大の防災は地域のつながり。他地域からの流入は核家族化を進める危険がある。良いコミュニティを。
- 自主防災、地域住民の全員参加の防災、地域内の周知を。
- 助けが必要な高齢独居者のケア（特に親類も近くにいない人）
- 地域の独居高齢家庭の増加に伴う生活の安全確保。（夜間の安全確保）
- 新住民と旧住民が交流しお互いに理解する。助け合う事ができるように。
- 日頃から近所との交流が大事！外から来た人も困らない地域作り。
- ハケ岳は自然災害の少ない所だと思うが、各戸の情報を各自治体（区）がどれだけつかめるか個人情報の問題もある。
- 海の津波以外の災害全ての種類の災害はあると思われる。防災組織の充実、強化を図るよう。
- 防災組織の確立

—避 難—

- 避難所は決まっても運営マニュアルが未整備。
- 防災。最低でも各区公民館は避難所指定。
- 想定した避難所が被災して機能しないケースを想定しているのか。
- 要支援者のケアを前提とした避難計画は？
- 消防団って楽しいよPR
- 自主防災活動。消防計画による運営。各区で実施する。
- 第5分団を立ち上げる。
- 消防活動のための道路整備。4m道路のない場所がある。
- 土捨場で土砂災害は発生しないか。
- 自然を守る、人を守る。特に森林内。防火水槽の計画的な設置。
- 雪対策見直し（温暖化の中で）電線の埋設。雪で倒木。

第3回ワークショップ『教育・文化・健康福祉』

小中学校教育など

- スマホ対策で親の教育、又箸の持ち方まで学校で教えてほしいとPTAから出ている。親の教育が必要な時代。
- この自然豊かな環境を生かした特徴ある教育がどのくらいなされているか？
- 会社に入って来る新人を見ると、言われた事はこなすが、創造力、企画力が弱い。小中学校で、この部分をアップできる教育をして下さい。
- 豊かな人間形成をかかげるが、施策は物質的な手当でのみではないか？心の育成のために必要なものは…
- 地域の人と子供達のつながりが持てない社会となっている。（声もかけられない）このことを解決する為の何かが必要。
- 「豊かな人間」とはどんな人間なのか、共通認識づくりがまず必要。
- 教育の場を「学校」「家庭」に限定させないように。
- 農業を振興する村として食育の充実を図る。
- 子供がネットを使う時代、親がもっと知識が必要。
- 小中学校における外国語教育をもっと充実できないか。（勉強だけでない楽しさを教える。）
- 海外で仕事をする人が多いので、ネイティブの英語を学ぶ場を増やす。（例：英語だけではなく、英語による数学、理科等。）
- 中学校統合。合併と一村一校は別問題。
- 一村一校の中で先生と生徒の関係づくり、何学年でクラス替えがあるのか。
- 教員の残業が多い。改善を。
- 学校での「総合の時間」をもっと有効に
- 児童、生徒への教育（原村独自の授業）、情報（子供向け）提供。
- 空き教室の有効利用
- 設備開放
- 保護者教育
- 教員（学校）、保護者、地域とのコミュニケーション、連携
- 村立の高校の設立
- マイスター学校の設立
- 放送大学のスクリーニング
- 30人学級、少人数の方が良いので継続で。
- 文化系の教室の日曜開催（社会人が出席できるように）
- 村の歴史や昔話を絵本に編さん、子どもへ伝える。（村の自然的な特徴なども）（職員）
- 不登校児童、生徒の為に常勤でなくても良いので、あるいは兼務でも良いので、スクールソーシャルワーカーを求められないか。（業務で茅野市1人、全県6人）
- 不登校の子ども達へのフォローの充実
- 不登校へのフォロー。学校に戻る支援と学校に行かずとも学べる場づくり。
- 不登校、不適應の子ども達を支援する人材を発掘してはどうでしょうか。教員は忙しすぎて無理です。
- 支援学級の教員の充実
- 支援学級の教員の高度な専門化
- 複数担任での授業
- 子どもの進度、理解度別授業の導入
- メディアリテラシー教育（職員）
- 教育委員会と保護者の直接意見交換できる会をもった方が良い。
- 村に1つの小学校、中学校だから力をそそいでほしい！
- 部活などの講師の先生をもっと呼べるようにしてほしい
- 安心できる教育施設の実現は継続を！
- 親による子育て→勤務地が近くに増えたら、子供と接する時間UP。
- 放課後、子どもが遊べる所をもっと増やす
- 図書館の祝日開館
- 小・中学校の早期の改修工事の実施。
- 通学路を田んぼのあぜ道に。
- 部活動の時間がもっとほしい。
- 子どもに教えたい内容+子どもが学びたい内容

- 学校の先生方が忙しすぎるのではと心配。→学習指導の研修（校内）など時間がとれるように。（地域の美化活動に引率はありがたいが不要なのでは）
- 全員自転車通学可
- 歩いて登下校する日（歩いても間に合う）9：00 スタート 2：00 終わり
- （子どもが）自分で自分のことを決めていい機会を
- 放課後の過ごし方を自分で決めていい
- 村づくりに対して子どもの声を聞いていく
- 小・中学校の「総合の時間」の活用。（生徒と村民の交流）
- ICTの活用、テレワーク等

生涯学習など

—生涯学習—

- 図書館は富士見のようにゆったりと広くしてほしい。つい富士見へ行ってしまう。
- 公民館を利用する登録団体間の交流。文化祭と重なるが、村全体の文化的な動きを感じる事ができる。
- 生涯学習、テーマの提案性
- 各資料館間の連携不足。村まるごとでの企画展とか。
- 生涯学習は村だけの組織でなく（集落との連携）各集落に組織体制をおき、村の指導により地区集落での行動の強化を。村全体の学習のレベルアップを。
- 子供が中心の芸術教室？みたいな所、行事、ワークショップ的なものがほしい。

—高齢者の活用—

- 生涯学習の中で、自分で自分の事ができる高齢者で利益を生むものができないか。
- 高齢者ともっと関われるような所、イベントみたいなものがあったら良いな。
- まだ元気ではあるが60代～70代の方々の老後（日々の生活）とその後の生活への不安が多い。→情報が届くように。
- 高齢者の参加。地域でリタイヤした人の能力と技術の活用を。

健康づくり、医療など

—健康づくり、医療—

- 小中学校の総合学習で、がん対策のため予防教育をしていく。
- 5才児健診、特に心。
- トレーニングジムや健康教室（定例）の拡充
- 大人のラジオ体操。集落ごと場所を決めてポイント制にして、何かプレゼント。
- 地域に入り込んだ健康づくりが必要。
- 自分の居住区内で身体を動かせる環境。ウォーキング、ランニング、地区公民館等を使った教室。
- 高齢者の健康維持、引きこもり、認知症予防などに対する更なる取り組みの強化。
- 健康づくり、医療について高齢者にとって病院に行ったりするのは大変である。村の公共交通をなんとかして確保してもらいたい。
- 食生活改善を広める活動の現状は？
- 健康増進のための活動は？
- 健康食。栄養士。（小中、村連携した）原村オリジナルの作成。地産地消。
- 健保レセプトの解析と活用（予防医療への展開）
- シェネリック医薬品の活用
- もみの湯を利用して温泉療法などできないか。
- エコラインより上に診療所がほしい。

—医療費—

- 医療費の無料化を続けてほしい。
- 医療費無料化の見直し。上乘せサービスの拡大。
- 65歳以上の医療の無料化は予防につながっているのか。
- 65歳以上と高校生までの医療費無料の財政基盤と今後の見通しはどうか？

高齢者福祉、障がい者福祉など

—介護保険法の改正に関連して—

- 介護保険法の改正により、要介護3以上のみが特養に入れる事となるが、要支援、要介護1、2の人達に対する対応をどのようにするか。
- H27.4より介護報酬が引き下げられるが、介護事業者の運営維持に対する施策が必要。

—独居老人—

- 独居老人、要介護の人達を村がどのようにみていくのか。民生委員、隣組。
- 独居高齢者の把握。支え合いマップの作成は？
- 独居の高齢者の方こそ支援が必要と思いますが、存在の把握はどうなっているのでしょうか。
- 256人の身体障がい者がどんな生活を望んでいるかの調査は？
- 障害者手帳を保有していないけれど、障がいがあるという方の把握はどうなっていますか。

—安否確認—

- 高齢者の安否は、もっとIT技術を活用し、迅速に把握したら？訪問確認はコストUP。
- 老人世帯の一人暮らし。老人世帯の見守り、訪問。
- iPad等による安否確認
- 介護予防教室を卒業後の受け皿がない。

—認知症—

- 認知症になっても暮らせる村になってほしい。
- 認知症者のオープン化（見守るため）

—医療費無料化—

- 65歳以上の医療費無料化は現金ではなく、地域振興券など村内の店や事業所で使用可能な商品券で支給。
- 高齢者医療。長続きするための制度設計をしなす。
- 医療費の無料は年齢を引き上げる方が良いと思う。
- 高齢者福祉、介護保険より下のランク、該当にならない人の対応を、民間社協、農協の委託化の方法で。
- 高齢化社会への対応。きめ細かな対応。現、保健衛生自治推進協議会と同様な、高齢者福祉の自治組織を設置する必要はある

—障がい者—

- 障がい者の働く場所の確保。
- 障がい者の為の施設の改良。段差をなくす。（高齢者にも大切）雪の為出られなくなる時の対処。視覚障がい者の為の信号。

—公共交通—

- 高齢化で村への買い物が厳しい家庭も多くなってくるので、原村・富士見などへの買い物バスなどを充実、通院の足を確保するためには？
- 住み慣れた地域で生活を続けるためには、買い物へ行くなど高齢者の交通手段がほしい。（セロリンに乗れない人）
- 高齢者が外出できるように公共交通の運行をしてほしい。
- 移動の支援。買い物で移動するしあわせ、選びしあわせのために。
- 総花的な項目UPではなく、メリハリをつけるべき。（例：高齢化対策、少子化対策、障害者支援→財源の配分） 高齢化は少子化により重たくなる。→子供に目を向けるべき。
- 要支援外しに伴う総合支援事業への取り組みを急ぐべき。
- 高齢者が3人に1人になる時代になる。予防事業に力を入れて行くことが大事。
- 高齢者含む老若男女シェアハウス（例えば高齢と子育てを結ぶ）
- 自主防災活動を作る。各区の取り組み。
- 引き込みがちな人のためのレク事業は効果があるのか？公の場に対するトラウマをどうすべきかがポイントだ。悩み事相談の機会を増やす方が良いと思う。
- 福祉。支える人のあたたかさ今後も続けて下さい。

- 冬は大変厳しいが、在宅介護サービスを充実させることは重要だと思う。
- 傾聴ボランティアをしています。高齢の方を対象にしたカフェを作りたいのですが、場所・交通がネックです。場所を提供していただけるとありがたいです。送迎も援助していただけるともっとありがたいです。
- 福祉・文化分野では良い所がある！続けていけるようにしたい！
- 福祉施設の拡充

子育て支援など

―広場、公園など―

- 子ども目線の街づくり。歩いて行ける公園。過ごしやすい放課後。
- 森のようちえんの設置（原っ子広場？→小学生）
- 子どもが地域に出られる場作り
- プレイパーク、冒険遊び場を充実（原っ子の森）毎日誰でも来ていい遊び場。
- 「学童、延長保育」はつまらない、寂しいと子どもは感じてしまう。→「居ないといけない場所」ではなく、「行ってもいい場所、集まれる場所」なら子どもは楽しい。自然と見守り助け合う。例：“同じ空間にいられる” ぐらいの「広い施設」「屋外」「プレーパーク」
- 自分の小・中学校の時は、自然の中で遊んだが、そんな場所を作ってやりたい。（例：林や森、川で遊ぶ）
- 屋外型の放課後の居場所（保・小・中・高・大人みんな一緒に）
- （原山）乳幼児と親、地域で交流の場がほしい。砂場。
- 子ども達がもっと外遊びをする機会をもつための支援が必要だと思う。
- 遊びの専門性への注目
- 村の中に中高生の居場所を作りたい。
- 小中高生がいていい場所（図書館は騒げない）
- よく学びよく遊べる場
- 自分の「やりたい」を応援してくれる居場所

―支援など―

- 大学進学者への奨学金融資制度。卒業後の返済、Uターン者→半額免除、就農者→全額免除。
- 奨学金の充実など
- 高校生への支援
- 高校生の通学支援。交通費、・地域における子育て支援をさらに拡大し充実していくためには、結婚して子どもを生むことができるように村営住宅の充実。若者、地場産業に。

―その他―

- 原村独自の子育て支援
- 「子育て」若い世代、子育て世代が原村で「子育てしたい」と思える施設やシステムは？
- 子育て中の親のキャリアアップの支援
- 親の教育
- 職場での意識改革と協力。男性の意識改革の推進
- 子育て支援に合わせて子ども自身の生活しやすさを考える。
- 児童・幼児がいない家庭も子どもに興味を！（見守る大人）
- こども議会→子ども役場（あらゆる村の課題に意見を聞く）
- 高齢者が増える中、子育て中の親子との交流があるといいと思う。
- 夏休みの休日学童の日数増
- 半日授業の日→地域の中で
- 公共交通の充実。
- 学童、原っ子広場から予算を少しずつ（年5～600万で）
- CM大賞への村をあげての参加
- 病気の時の子供を預かるより面倒を見て欲しい。会社を休めない。
- 延長保育の子と小学生、中学生も一緒にお迎えを待てる所があったらいい。保育園に集まるとか。
- 子育てに悩む若いお母さんたちのたまり場、気軽に集まり話が出来る場をもっと増やしてみたらどうか。
- 子育てで悩める親の話せる場の充実（親育ちの場）

- 学校から歩いて帰る子供達の下校時間に要所、要所に父兄が見守りできれば。
- 地域の大人の見守りを（不審者？対策）→村の一体感が必要

スポーツ、レクリエーション―イベント―

- 村民スポーツ祭には全地区参加する。
- スポーツ祭や大会の規模を大きく
- 村民全員がかかわれるようなイベントがあれば。新住民と旧住民のふれあいが少ない。（例：森林マラソン）
- スポーツ祭の競技に、小学生や中学生だけの種目もつくる。
- 高齢者によるスポーツ団体を作り、諏訪地区で競技大会をする。
- 星空の映画祭など。ボランティアへの支援（産業？）
- 教育委員会はスポーツレクリエーションの施策に、福祉課と一緒にって取り組んでは。
- 1人1スポーツの推進をし、攻めの健康づくりの方法を作ってほしい。そのため各集落の役場職員の指導をしてほしい。

―施設など整備―

- スポーツ施設の充実
- 設備のレベルアップ
- 指導者確保
- 広くて大きい遊具がたくさんある公園がほしい。学校の近くに。
- 多目的のスポーツ施設だけではなく、専用のスポーツ施設も必要ではないか。
- 学校のプールを一般開放できないか。子どもの数も減り施設を有効活用する必要あり。
- 冬場の運動施設が少ない。トレーニングできるような施設がほしい。ウォーキングもままならない。（高齢者）
- 送迎。子供達の足を確保。

―歴史・遺跡・文化財など方策―

- 遺跡、文化財Mapを作り、それをめぐるウォーキングコースを作り、HP等でアピールする。
- バーチャル美術館HP
- 遺跡のもの、図書館、文化園、美術館等で展示を！入れかえをして。
- 博物館は人件費、維持費等かかるから必要ない。

―歴史・遺跡・文化財など活用―

- 村の文化財をもっとメジャーに！
- 世の中に自慢できる遺跡、文化財があれば（縄文のビーナス的なもの）
- 阿久遺跡やその文化を村のシンボリック的な位置づけとし振興を図る。
- 埋蔵文化財の文化的意味を全村的なものにしてほしい。具体的には収蔵庫の埋蔵文化財センター化。
- 文化財、茅野（市で2つ、国宝全国初）、原村、富士見との連携を。
- ハヶ岳、縄文文化。他市町との連携。
- 縄文を諏訪地域のものとしてPRしよう！
- 「縄文」は茅野だけじゃない！諏訪地域全体で「縄文の故郷」
- 阿久遺跡をもっと活用してほしい。
- 阿久遺跡の土器、石器の常設展示をする。
- 歴史を各地区で学べる歴史研究を進めてはどうか。鎌倉街道を御柱にちなんで復活を考える。生涯学習。

その他

- 生活地区と娯楽やレジャーの場を一緒に。
- 地域社会との連携。地域の人材を取り入れているのか。（学校教育の中に）
- 学校教育の中に地域人材を活用するためには人材マップ、人材登録が必要。
- 保育園と老人ホームを一緒にすると良い。子どもにも高齢者にも良く、施設としても効率良く動けるのでは？
- 異年齢とのふれあいが必要。（例：乳幼児と高齢者、中学生と小学生、中学生と保育園児）
- 子ども達が高校を卒業すると地域を出て行ってしまう。いかにして出て行った若者達が戻って来る対策を。
- 今住んでいる若者への支援も大切だが、今後戻ってきてもらいたい子ども達への支援をもっともっと大切に。今住んでいる若者は村が好きで住んでいるので、ちょっとくらい不便でも我慢します…
- 文化、労働、学習。一生を日々へ。子供も働き大人も学ぶ。文化活動みんな毎日。
- 自分のふるさとが好きなら、ちょっとくらい不便でも何とかしようと思う。→まず好きになってもらうことを大切にしたい。
- 外から来た人の方が元気？→原村愛が足りない…（子どもの時から）
- 子どもの「今」を大切にすることで村に戻りたいと思ってもらう。
- 「交流会」としなくても地域の人が集える場所を！
- 常設映画館誘致の可能性？または既存施設を利用した上映会は？
- 子ども達の持つパワーを知ってもらえる場（文化祭、芸能フェスタ）
- 公民館を自由に使える
- 地区の行事もっとやりたい！子ども会でも大人でも。
- 地区で行うイベントなどへの支援
- 文化祭を小中（高）合同で。
- 原村演劇部
- イベント、行事の広報の仕方をもっと色々。（回覧板）

- 「男女共同参画」が全庁的な共通認識になっていない。教委のみの所管？
- 男女共同参画、議員に女性枠を設ける。10人中4名とか。
- 男女共同参画社会に意識改革を。（みんながみとめ合う社会）

- ボランティアの拡充化
- ボランティアへの支援をどう考えていますか？社協との関連も教えてください。
- ボランティアセンターを作ってください。

- 足の確保
- 村内の施設間の公共交通手段
- セロリン号、茅野と原村をつないでいるバスに自転車を乗せられないかな…
- 周りの人が交通機関に。（同じ方面の人を乗せていく）

- えごまの栽培（オメガ3の活用）
- 保健指導員等の活動中のケガなどの支援
- 携帯、インターネットを禁止する方向ではなく、上手く安全に使える方法を子どもに伝えていく。逆に子どもから大人に便利さなどを伝えていき、お互い理解できる場を。（例：天竜村、インターネットおばあちゃん）

第4回ワークショップ 『産業振興』

農業

―農業の方向性―

- ・農用地の保全と高度利用の方法として、新作物、薬草等の6次産業化
- ・六次産業化。生鮮品を加工する。技術、開発、高地野菜の活用。(例：ハーブと塩(セロリ))付加価値のある野菜作り。
- ・無農薬・無化学肥料による野菜、米、果物の生産を原村の特産にする。上記の農産物を用いた加工食品のブランド化
- ・農業を産業振興の中心として位置づける。
- ・魅力ある原村の農業と観光(ペンション、飲食店など)のきめ細かい連携→情報の共有
- ・原村は農業の生産地としてこだわる。
- ・原村ブランドとは何かの問い直し。
- ・冬も生産するシステム作り。(例：ハウスで温泉を使って野菜を作る。バイオエネルギー等による保温等)
- ・地元のを地元で使う、食べる。(例：畑で直売！)
- ・原村の農産物の活用。食の健康づくりメニューの開発。成分分析に基づいた商品づくり。
- ・地産地消、村内の生産物の地産地消。村内→諏訪圏内へ広げる。
- ・農業と観光との連携。体験加工(野菜、豆、花)JA・農家・農場(文化園が連携をとる)
- ・農家への宿泊体験
- ・農家が主役となるグリーンツーリズムの推進。農家民宿、農家レストラン、加工、販売。
- ・直売所、加工所(加工→販売)の必要性。村民の提案により、設置されることが重要。村主導でなく村民主導で行う。村は事務・経営指導。
- ・農地面積の減少を止める。土地の利用を農業者(転用利用者でなく)農用地の利用地確定する。
- ・農業施設、農用地・農水路・農道の保全を原村全地区実行
- ・原村に農業担当部署に農業専門職をおく(職員では難)
- ・農業生産組織を集落部組織(北部,中部,西部,中東部)又は原村会社組織で。

―遊休農地の活用―

- ・遊休農地を活用して高齢者などを活用して、作物・果樹などを栽培し、福祉対策と連動した事業を考える。
- ・荒廃農地の利用。優良農地の転用は基本的に出来ないが、村で団地計画をして農地付きの土地販売。→建物以外は農地として管理。
- ・遊休農地の計画的(強制的)な利用計画
- ・農地の遊休化をしない。田んぼは全部作る。もち米、酒米に変えて作っていくことが大事。農業組合組織を作っていく。
- ・遊休農地、空く予定の農地の活用として、国産の薬草、大豆等の豆類の栽培。体験、加工につなぐ。
- ・遊休農地の活用①大豆→豆腐、みそ②そば③小麦→パン、その他
- ・休農地はもったいない!→手のかからない植物を植える。遊べる原っぱに。
- ・休農地を有効活用して観光資源に!(例:茅野北山の赤そばみたいな)

―農業従事者の確保・支援―

- ・企業型農業を行い、若い労働者を育てる。人を集める。
- ・村独自に新規就農者支援策を拡充する。
- ・農業をやりたい若い世代に教える人がいない。→家族、親族以外でも現役の農家が誰でも教える。
- ・農業移住→仕組み、手当て、住宅、育てるサポート
- ・農業をやりたいIターンを呼び込む!
- ・後継者の育成支援。県普及センターJAと村が連携し、相談・指導体制を整える。若者の提案がしやすい場を地域で設ける。

―新しい農産物など―

- ・付加価値の高い農産物
- ・加工に適した農産品
- ・信州、高地の利用の野菜
- ・セロリに専念
- ・地ビール、地酒製造業を興せないか。酒米、大麦の栽培。
- ・北欧、カナダ、北海道的→自然環境を活かした農作物→首都圏のレストランから受注システム→淡路でVILADESTプロバンス野菜
- ・長野県ワインバレー構想を視野にハケ岳ワインPiemont(ピエモン)を構想できないものか。原村を日本のブルゴーニュに。
- ・ハックルベリー(ナス科の実)を作る。ジャム、フランス料理
- ・原村の地域でそれぞれ作物を作っているが、どういう効果があるかわからないで作っている人が多い。私はエゴマの村を目指したい。村も是非協力してほしい。
- ・原村で一番多い(出荷量)セロリ、カリフラに続く農産物の開発。高齢者にも生産できる農作物の開発、推進。
- ・特長ある農産物を(例:富士見町のルバーブのようなもの)
- ・原村は野菜、特にセロリのイメージが強いが、花と野菜、果物が豊富といったイメージにしていけたらいいと思う。
- ・「富士見のルバーブ」みたいな「原村の〇〇」を作る!

―農産物の販売促進―

- ・料理コンテスト→村の施設で販売(もみの木)
- ・原村の特産品を販売する拠点を作る。
- ・都内に直売所、朝→夕屋
- ・大阪、名古屋直売所、朝→昼
- ・農協の出品コーナー、自由農園の連携とれないか。(セロリ等)村外のものが多い。
- ・地域エネルギーによる暖・冷房コスト削減→利益率の上昇、雇用力の強化、安定経営
- ・農業施設へのヒートポンプ支援。省エネ、クリーンエネルギーでの栽培管理。
- ・中山間遊休地の活用→①バイオマス原料②特産品の生産③景観育成
- ・農業生産基盤の整備は広い目で見ると、治山治水の根幹の部分だと思う。今後でも大切にしてほしい。役場の役割も大切。今までの自治区の皆さんの努力も感謝している。
- ・農協(JA信州諏訪)の会合で、原村の野菜生産が、この地域でトップと初めて知った。→こういう情報を知りたい。発信して誇りにしたい。
- ・農産物の出荷先がJAに限られる傾向(自由農園等もあるが)
- ・「田んぼのある風景」を残したい!

観光

―観光の考え方―

- ・コンセプトワークをしっかりとやるべき→お客が何を求めているのか→何を提供するのか
- ・これしか出来ない発想からの脱却
- ・まず原村に産業を起こす社会資源がどうあるか上げていくことが大事だ。
- ・住む人が快適で楽しい村→観光にもつながるのでは?
- ・住む人が村の魅力に気づく!再発見できる機会作り

―観光の方向性―

- ・観光、インバウンドを積極的に受け入れないと増加しない。個の充実。インバウンド対策
- ・連泊や長期滞在型の受け入れ
- ・観光地というより保養地として。
- ・自然(森林)・健康を主体とした(重きを置いた)観光創世
- ・豊かな自然の中で水と空気が美味しいといった事をアピール。健康。
- ・体験・滞在型の観光へ。宿のNew(コンドミニウム、シェアハウス、クラブハウス)→森林散策のインフラ、Natural IVENT
- ・諏訪地域で一体となって観光に力を。
- ・ハケ岳観光圏、諏訪広域との連携。宿泊施設を利用しての体験プログラムを作成し、季節性、地域性での違いを持たせる。
- ・集客のある場所同志の連携。農場、自由農園→村の施設アピール
- ・農業を中心としたグリーンツーリズムの構築
- ・移住用体験
- ・“美しい村”登録して観光のアピール
- ・ふるさと納税の特典と観光と連携でもっと素敵な魅力的なモノに!

―観光の活性化策など―

- ・スポーツ合宿の増加による宿泊施設の活性化(陸上)
- ・縄文遺跡を生かせないか。阿久とか、富士山の見える場所の観光化。
- ・縄文文化(阿久遺跡)をアピール。
- ・阿弥陀岳、権現岳の名称を生かし、山岳信仰の構築を図る。
- ・暗さで勝負する星空のブランド化
- ・星をテーマとした村づくりの強化。(若い人がデートできる環境)星まつり、星空の映画祭、朝市などのイベントと、宿泊施設が連携した朝~夜まで楽しめるプログラム。
- ・景観の維持、創造は観光にとってとても大切。乱開発ないように。(廃屋、オオハンゴンソウ、太陽光パネル)
- ・どこに行っても同じ様な観光地が多い。来る人のニーズを聞いて施策をする。こうすれば来るのではという施策では、客が来る時代は終わった。
- ・観光に不可欠な温泉の見直し
- ・ワインツーリズムの可能性について研究。栽培、醸造、景観、レストラン、宿泊
- ・ペンションの語源にもどりB&Bにできたら、近くにレストランが必要。
- ・「野外フェス」で地元の若い人を盛り上げる!外からも見に来る!
- ・ものづくり(ブランド開発)。農業、事業者との連携したものづくり。まず多様な人材が集まり語る場を。若者、男性、女性、いろいろな人が。

—観光の活性化策など—

- 森林浴をうたう遊歩道の整備
- 若い人（18～25歳）の遊び場がないのでは。
- 宿泊施設、農地（農地ガルテン）体験
- 海外で売っている観光案内“JAPAN”に原村を入れてもらう。
- 観光農園の応援
- イベント応援
- HP制作、チラシづくり
- 文化園をなんとかする
- 冬ソリイベント
- 美術館、文化園、ペンション、農場の流れ→周遊
- ペンションから歩いていける近場の温泉
- 今ある資源を知ってもらおう（案内人）→山林、農地。ネットでイベント紹介→集客。
- 公園のインフラ整備。博物館、縄文イベント。
- 観光施設のリニューアル。客が減っているのではなく魅力が無い。泊まりたい宿、食事、環境。楽しくなる自然をフィールドにしたイベント。
- 中央高原に展望台を作る。
- イベント。年2回のクラフト市を村としてバックアップする。原村市（夏→高原朝市、冬→星空市、春→サクラ市、秋→美術館とタイアップ）
- 森林ウォーク、ランニング＋スイーツのイベント。原村の野菜（無農薬）を素材としたスイーツのブランド化。
- 自然のそうじ！エコライン、ズームライン、ハチマキ道路、森林道のそうじ！
- 村はペンションを今後どう扱っていくのか。
- ペンションのあり方、世代交替を地域活力
- 産業として“観光”は安易な方法では？
- 健康チェック・医療、都市と連携→毎年
- 観光は現在の観光関係者が考え計画する事。将来等を推測し無理のない施策を観光業者の判断で。

工業

—企業誘致など—

- 原山などでも空き家が出てくる。IT関連のSOHO（Small Office,Home Office）の誘致の発信はできるかな？
- 新規起業の推進（現在原村にない分野）
- 食品加工業者の誘致
- 日本へ生産を戻している企業が出て来ているので、原村へ誘致する。
- 工場誘致
- 工業誘致（原村ブランドをおこせるような）
- 空気の清澄さを生かせるような工業（何かわからない）の誘致
- 電力の安定確保ができる事と、地盤が固い事をアピールし、工業の誘致をする。
- 県、東京事務所を通して原村にも工場を誘致してもらいたい。2工場くらいあれば良いのではないか。
- 優良企業立地促進、企業の誘致社の意見を募る。高速インターから最も近い位置でないと。（企業側の意見）
- 自然エネルギーを活用する工業（？）

—その他—

- 【工業、商業】原村の中の企業や商業を含む内容をもっと住民へアピールできないか。（例：産業祭り）
- 六市町村との連携。土地の活用（〇〇）
- 脱下請け→新規事業開発への支援
- 中部・関東・上越から中間地点の立地を生かした企業、流通センター。Net Reserch、Web Office center
- 長野県は農業県よりも工業立県だと言う資料があるが。

商業

—施策の考え方—

- 地域にとって必要なものの提供→何が必要とされているのか
- 他県、他国が欲しいと思う魅力あるものを育成→情報発信、外貨を得る（域外）

—農業の振興による商業—

- 野菜の原村ブランドを作り売る。
- 地元野菜の販売を地元で行い、“原村へ行けば新鮮な野菜が買える”イメージを作る。
- 農産物の加工も原村内で行う。
- 他市町での購入を村内に引き戻す

—商業振興のアイディア—

- 商業地をさがしている人は多いが立地がない。グリーンライン弘沢富士見線は特にならない。利用出来るようにする。
- 若者を呼ぶ商業施設はもう少しないと難しい（不便）
- カフェがほしい！ペンション、観光客向け以外も住んでいる人が使う。
- 屋外フェス（原フェス）
- 期間限定でお店を呼ぶ。（例：3日間だけドンキホーテやIKEAを開く！）
- インターネット販売サイトの構築。「原天」で原村の特産品を販売。
- 商店街エリアを作る→ハートマップ→Welcome Center

- 日用品はCOOPで間に合うし、茅野、諏訪圏も車で15分～30分
- 3番目の販売所
- お店ができてしまうと景観が悪くなってしまう。

雇用・勤労者対策の推進

—方策—

- 住みやすい原村
- 若者が働ける環境整備
- 「私、これができます！」の村民登録
- まち・ひと・しごとの創生をうたうならば、原村の人材をもっと村が活用すべき。（かくされた人材がたくさんいる。）
- シルバー世代の集落を作る。原山のように散らばっている人達をどうするか考える。
- 移住する人の村行事、役割への参画
- 新居住者の区への加入を。案内パンフ
- 若い農業従業者を村外から誘致する。→魅力のある食物を作る。
- 雇用、中小・零細が1社1人ずつ、採用を増やせるように支援、育てる。起業を支援する。
- 障がい者の雇用の促進。あるものさがして雇用されること。地域社会の一員であるというつながりを持つ。
- 村内企業の求人状況を見れるようにする。（場所、HPなど）
- 今時雇用の充実なんて考えることは古い。まず実習者を増やす。

- 原村に安心して働ける雇用先があるのか？創出
- 企業型農業組織による運営をする。製造会社が農業をしている所が増えている。
- 宿泊、シェアハウス

その他

- 村の産業がうまく連携できると良い。個々でがんばっても限界あり。アイデアがほしい。
- 原村全体の高齢化に伴う話題：高齢化に対応して、健康、福祉、スポーツなど産業として注目したい。
- 循環型地域エネルギー“はらむらモデル”の創出と、これに「農業」「中山間遊休地」「副産物～商品」「観光」「雇用」「住環境改善」「工業」「地産地消」をポジショニングし、強い地域力をつくる。
- 地域エネルギーは新エネルギー（バイオマス（熱）、太陽熱、地中熱、バイオマス（発電））、省エネルギー（必要熱の減量、断熱強化、新しいエネルギーを創るのと同じ位有効）
- 新エネルギー、光→集光→発電、ゴミ焼却。1000万～2000万プラント木内氏（佐久在住）
- 【全般】起業支援＋育成→100億の会社を1つ（又は誘致）より1億の会社を100育てる。

その他

- 「選択と集中」の政策
- 銀座のアンテナショップNAGANO徹底利用
- Ginza Nagano 利用したPR。村の食と健康、環境のPR。
- イベント、サッカー場（J1のサブスタジアム）、講演会場
- 市民農園又都会の学校に呼びかけ、子供達の体験学習を呼びかける。
- 移住（子育て世代）へのアピール
- 移住者＋地元住民交流イベント
- 移住地メリット、入村金
- 田園景観の美はPR。田、せぎ、森、ハケ岳。
- 循環を教育に。生産→生ごみ堆肥→土
- 廃屋（空間）を造らない
- 交通、バス増便
- デュアルライフとしてのインフラ

- 動物園
- 村民〇〇祭
- もっと飲食店が欲しい。
- 音楽活動のできる場所
- 星まつり＋α、星にまつわる何か。全国的に集まっているが、どの程度知名度があるか。
- 村の有線放送を接続されていない家の情報不足。有線で流せば周知した事になっている認識。
- 「今」が満足なら戻ってきません。
- 日本で美しい村、地域条件2個以上は文化、昔ながらの芸能、郷土文化あるのが難しい。加盟は難しいと考える。

10年後、どんな村にしたい（なってほしい）か？	10年後をイメージした村の実現のために必要な取り組み	その他
<p>例えば</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの笑顔があふれた 田畑や八ヶ岳の風景が自慢 若い人が沢山移住している村 村の総人口が〇万人 など 	<p>例えば</p> <ul style="list-style-type: none"> 若い人が農業に携われる環境づくり 美しい村を保つために森林の手入れ、活用 子育て支援として、医療費補助の継続 など 	